

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グル - プホ - ム・ロ - ズガ - デン
(ユニット名)	白バラ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目34-15
記入者名 (管理者)	峯 茜 早苗
記入日	平成 19 年 7 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>理念の意義を毎日業務の中で生かせるように、業務の見直しや工夫を行う。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>スタッフ皆が理念を理解できるように具体的に話していく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>苑だよりなどを出して、地域の催しや、行事に参加し入居者の様子を理解して頂く事により、理念の意味を伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>地域の行事などにも積極的に参加し、気軽に立ち寄って頂けるように交流を深めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	総括の管理者は、地域の成人学級や婦人学級で勉強会の講師として、認知症の理解を求める活動をしている。		スタッフも少しずつ介護に対する知識・技術を身につけ、地域に貢献できるようにして取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を十分に理解し、実施出来ているか個々によって理解能力に差がある。		自己反省のよい機会としてとらえ、評価の意味を理解し、話し合っ改善していけるように取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の機会も少なく施設側からの一方的な報告会の様になっている。		議題を明確化し、参加者にも解りやすく伝える。意見が出しやすい方法を考えていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは書類上の手続き等で連携を取っている程度である。		サービスの質の向上に共に取り組んでいく方法が見い出せないでいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	使う必要性があるか疑問である。事業や制度があることはわかっているが、あえて利用していない。		入居者にとっても、身元引受人が明確にしてある方が不安や心配がないと思われる。施設側にしても同様である。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虚待は身体的なもののみにとらえがちであるが、言葉・態度等も心の虚待になる事など機会をもって具体的に伝えている。		介護は人対人である。スタッフも人であるので過剰なストレスを感じる事のないように、スタッフ間で話しやすい環境を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用案内時に家族(身元引受人)に契約書にそって説明し、内容について理解して頂き、同意をもらうようにしている。退去時には施設管理者・主治医から説明を行っている。</p>		<p>家族では最後まで施設での生活を望まれており、その為には医療との連携を満にしてい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情のあった時は、対応策を検討し回答・改善していく様、努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、お便りなどを出して、暮らしぶり状態報告などを行っている。金銭管理は定期的に家族へ報告している。職員の異動等は面会時に話しをするが、遠方の家族には報告していない。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>頻繁に面会に来られる家族には、その都度、不満・苦情を聞き対応した結果を報告するようにしている。</p>		<p>意見や不満のない家族こそ本音で話していただけるように気をつけていきたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する職員の意見や提案を申し送り時に聞き、管理者などに相談し反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望に答えられるよう対応して調整は行うように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職は最小限に抑える努力はしているが、体力などでやむをえない場合がある。</p>		<p>実際の介護現場は求められる事も想像以上に多い。その為突発的な腰痛・家庭の事情などで退職する人もいる・他のスタッフに協力を得利用者に負担をかけないように努めている。。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成するため、研修などに多く参加できる機会を設けているが十分ではない。		研修に参加できるような勤務体制作りをしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総会や研修で交流があり、相談をしたり情報も聞いてサービスに生かすようにしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ同士で意見交換などをする場を設けて環境作りを行っている。個々によって、ストレスを感じるには、程度の差があるので難しいこともある。		ストレスを軽減する為の工夫を行っていく。お互いの意見、考え方を言える関係作りをしていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力を認める。各自が向上心を持って責任ある仕事ができるようにアドバイスしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の求めている事に耳をかたむけ、受容するよう努力しているが、家族の気持ちが先行している。		本人の気持ちは理解できるが、家族にうまく伝えられない所がある。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向はケアにあまり反映されていない。相談などは、良く聞いて受けとめる努力はしている。		家族にとって全面的に安心し、満足しているとは思えないが、答えられるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しを十分に聞き、支援方法を考えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入所される方やそうでない方もいらっしゃるなので、少しずつスタッフ・家族と相談しながら馴染めるように工夫している。		入所当初は細心の注意を払い、心身ともにケアし安心してホームの生活に馴染んでいけるよう努めている。スタッフ間でも情報交換を細めにするようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する立場になっている時がある。本人の観察が不十分で喜怒哀楽を共にするまでは至っていない。		業務優先になっているので、全スタッフが一緒に過ごす意義を理解し、向かい合っていけるように努めていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居されている家族も高齢の方が多く、支えていくのをお願いするにも躊躇する所がある。家族の意向を理解し本人を支えていくのに協力している。		施設側の一方的な押しつけにならないように、家族の方が自発的にされる事には協力している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努めようと努力はしているが、家族の意思にまかせている所がある。		家族によって、思いもさまざまであるので、細めに本人の状態をうまく伝えられるように努めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いも様々なので、家族に相談しながら支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り、孤立しないようお互いに上手にいくように支えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と付き合いをされる方、されない方に分けられる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望に気づいていない。		スタッフが1人1人と向かい合って意向の把握に努めていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族に伺ったり、生活していく中で本人に聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態把握に努めているが、出来ていない部分もある。有する力を引き出す事ができていない。		出来る事までスタッフがしている事もあるので、スタッフが個々の状況を共有できるように、情報交換を身に付けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を伺うが「まかせます」との返事が多く、施設側の一方的な計画になっている。		本人や家族にも介護計画という物がどういう目的でどう生かされるのか伝えていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを行い、見直しを行う様にしている。		状態変化に応じた見直しも記録とし、職員が統一した介護を行える様にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケアプラン・ケース記録と日勤帯・夜勤帯で区別し、記録している。計画の見直しには活かさきれていない。		情報など共有しているように見えるが、実践に生かされていない場面があるので、見直していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各ユニットに意見箱を設けたり、実際に意見を伺ったりし、出来るだけ要望に沿うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じた他の機関との協力支援を行っている。民生委員と施設との関係はあるが、入居者個人との関係はない。		ボランティアなどの協力を得ながら必要に応じた支援を行っていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所に関しての相談のみにとどまり、協働しているとはいえない。		支援センターとの協働の内容をよく理解していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、又は状態に応じた受診を行い、適切な医療を受けられるように支援を行っている。家族にも本人の状態を知らせたり、主治医より説明して頂くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況報告を行い連携をとりながら、直ちに治療が受けられるように支援を行っている。適時アドバイスを頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携病院との看護師・リハビリ担当・栄養士に相談し、助言をもらったり活用している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から主治医に利用者の状況を報告している。入院時には毎日、情報交換・面会を行い、連携をとっている。医療機関と常に連携が図られている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医やご家族と相談し、方針を共有するようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者は、主治医・家族と相談し入院になっている。ホーム内でケアしていくのに、スタッフがどの程度理解し、支援していけるか不安がある。		終末期の利用者は、より専門的な医療知識・技術が必要になってくると思われる。主治医の指示のもとスタッフが出来る事を見極め、支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移る時は入院の時のみである。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	言葉かけなど、基本的な考え方が出来ていない。	スタッフに自分が言われたらどうかという事を考え、対応出来るように徹底していききたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人が思いを表される方、出来ない方がいる。利用者が納得して暮らせるように支援は行っている。	利用者本人の希望に近い生活が望めるように働きかけ、努めていききたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	業務中心になっており、1人1人のペースにあわせ、希望にそった支援になっていない。	スタッフが何を優先にするかと考え、利用者がその人らしい暮らしができるように支援していききたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	その人の好み、おしゃれが出来るように支援しているが、スタッフが先に準備をしてしまう事がある。散髪は美容院に行かれる方もおられる、行かれない方は施設に来てもらい散髪を行っている。	毎朝の整容がきちんと出来るよう、努力していききたい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	楽しい食事が出来るように、食器をかえたり工夫している。又、一緒に野菜切り・食器洗い・片付け等を行っている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	利用者の好みに合わせた、おやつ等を楽しめるようにしているが、菓子類が多く、時々ホットケーキなどを出している。お酒・たばこはない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表をつけ、個々の排泄のパターンを全スタッフで共有している。失敗もあるが努力していると思う。</p>		<p>これからも、排泄チェック表を利用して、個人の状況把握が的確にできるようにしていきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日や時間帯も、スタッフの業務の都合で決めている個々のタイミングに合わせて入浴される方もいる。</p>		<p>利用者の希望を実現していくには業務の見直しや勤務体制・勤務時間などの検討が必要と思う。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中はできるだけ離床して頂き活動し、夜間安眠できるようにしているが、日中、自力で動かせない方は、イスに座りっぱなしの状態も見受けられる時がある。</p>		<p>個々の状況をしっかりと把握し休んでいただくよう努めていきたい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々にできる役割・楽しみごと・気晴らしは全員には支援できていない。</p>		<p>職員が出来る事に着目し、配慮していく様にする。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていないと不安な方は、所持して頂くようにしている、個々の希望に応じ買物にいきお金を使えるようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>計画にそっての外出や近くの公園・屋上への散歩には行っているが、個々の希望にそってとはいえない。</p>		<p>個々の希望にそって、対応するスタッフ間の意志の疎通・連携がとれるようにしていきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族の協力もあり、温泉やドライブに行かれる方もおられる。外出行事は、全員が前提で実施している。個別には誕生日に外食する程度である。</p>		<p>個々の希望に沿って外出する機会も増やすようくふうし支援していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご希望に応じているが、手紙等のやり取りは支援していない。電話の希望は頻繁にあるが家族と相談し負担にならないように時間など考えている。		手紙など強制は出来ないが本人の希望に沿って支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族に前もって、面会の困難な方等を伺い、対応させて頂いている。スタッフも雰囲気の良い様に対応に気をつけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の意味合いは分かっている。拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階はオートロックである。誰も居らず防犯のため、心理的圧迫にはなっていない。夜間は個人の居室に鍵をかけないと安心されない方もおり、個々によって対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時々、転倒があったりして、所在や様子を把握しているが安全に配慮しているとはいえない。		スタッフ1人1人が個々の状況把握を十分に行い、責任を持って仕事に取り組み、失敗を繰り返さないように努力する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や取り扱いにも注意しているが1人でさせたら危険という感覚がある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止についての勉強会をしている。事故がどのような状況につながるのか十分に理解しておらず、認識が甘いと思う。		事故にあったら高齢者はどういう状況になるのか、日頃よりスタッフに具体的に伝え理解してもらえるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあり、勉強会などで実施しているが職員によって対応に差がある。実際の場面で動けるか不安である。		どの場面でも素早く対応できるように、繰り返し勉強していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、避難訓練を行っているが、それだけで十分とはいえない。		日々シュミレーションし出来るようにする場面を作りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に1人1人に起こりうるリスクは家族に説明させていただいているが本人の意欲があり適度な運動や家事もしていただいている入所後の個々の状態変化については報告説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化があったら早目に病院受診し、対応していく様に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと服薬の支援はしている。症状の変化についてもスタッフ間で話し合い、連絡表を書いて主治医に報告し、対応しているようにしている。		薬の目的や副作用など全スタッフが理解していくように努め疑問のあるときは主治医に伺い学んでいくようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来る限り食物や運動をするように努めているが、困難な時は下剤も使用している。排便チェック表を付けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ははみがき・うがいをして口腔ケアを行っている。夜間は義歯をはずして消毒されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表を作り、個人の状況が解るようにしている。献立は栄養バランスを考えながらたてている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルは作成している。日常的には、まな板・手ふきタオル・トイレ・浴室の消毒など、ハイターで行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買物は毎日行い、新鮮な物を使う様にしている。調理用具など常に消毒を行っている。残った材料も冷凍して早目に使うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は普段の家庭と同じような造りであり玄関の横にも花のプランターを置いたりしている。高齢者が困ったときに立ち寄りして安心して出入りが出来ると思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾ったり、廊下には入居者とスタッフが作った作品を飾るようにしている。居間では観葉植物をおいたり金魚を買ったり同植物への愛着があるのが見受けられる。		花や置物を飾ったりして季節感を採り入れる工夫をしていく
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所は個人の居室のみである。仲の良い利用者同士声を掛け合ったりリビングで過ごされる事が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は寝るだけの場所になっており、ほとんどリビングで過ごされる事が多い。居室には家族の写真を置いたりしている。		個々の性格や心身の状況を見極め本人がどこにいてどこが居心地がいいのか知り理解していく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は細めに行っているが、クーラーなどスタッフの感覚で行っている事が多いので、入居者に室温について尋ねたりする配慮が細めに行っていない。		日中の温度差などに細めに気づき、入居者にも尋ねながら温度調整が細かく出来るように実施していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどはつけたりしているが、まだ十分であるとはいえない。		特に浴室など手すりが必要だと思われる場所を検討し、安全な環境作りに努めていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人自立して暮らせるような環境づくりに工夫はしているがわかる力は活かされていない。		工夫して失敗することもあるが繰り返し考え利用者が不安なく生活できるように支援していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花・苗物を植えたりしている。屋上には、季節で作物を作ったりして収穫を楽しんだりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各チェック表、記録物など毎日きちんとされている